



# 30 th Anniversary

埼玉県建設業協会

青年経営者部会

<https://skk.or.jp>

一般社団法人埼玉県建設業協会  
会長  
**小川 貢三郎**



埼玉県建設業協会青年経営者部会がこのたび創立30周年を迎えられましたことを心よりお慶び申し上げます。

青年経営者部会は、平成6年4月、次代を担う建設業の青年経営者が集い、新時代に適応していく経営能力の開発と知識の習得を図り、資質の向上に努めることを目的として、116名により設立されました。歴代部会長を中心とした部会員の強い団結と融和の成果により今日の発展を遂げ、100名を超す卒業生は、協会運営の要となる有意な人材として、且つ、地元建設業をリードする青年経営者として多岐にわたりご活躍されております。

部会設立時の建設業界は、就業人口も600万人台を維持しておりましたが、現在は500万人を下回り慢性的な人手不足が続いております。さらに令和6年4月からの時間外労働の罰則付き上限規制への対応として、建設DXによる新技術の導入を始めとする生産性の向上や働き方改革の推進が一層求められております。

青年経営者部会は、設立以来、数々の挑戦により困難を乗り越え成長して参りました。この30年の歳月は、地域建設業者にとって変革と挑戦の連続でしたが、このような中にあっても、部会員の皆さんには、県内建設業界において卓越した業績を築き、地域社会に貢献して参りました。県民からの「地域社会の守り手」としての期待に応えるため、部会員の皆さんにおかれましては、今、業界が抱えてる様々な課題に向かって積極的に取り組んでいただきたいと存じます。創立30周年を迎える今年は、部会員の皆さんのが新時代に向けて新たな一步を踏み出す年でもあります。今後、部会員の皆さんのが、豊かな地域社会の実現と、魅力と活力のある建設業を創造するため、大いに活躍されることを期待しております。結びに、青年経営者部会が今後ますます発展されますことをご祈念申し上げまして、私のお祝いの言葉といたします。

埼玉県県土整備部長  
**吉澤 隆**



埼玉県建設業協会青年経営者部会創立三十周年、誠におめでとうございます。

皆様には、日頃、埼玉県政に多大なる御協力を賜っておりますことに厚く御礼申し上げます。

貴部会は、建設業の青年経営者が親交を深める中で、新しい時代を担う業界の要となる有意な人材を輩出されてこられたことは敬服の至りでございます。今後も地域づくりの担い手としての御活躍を御期待申し上げます。

令和6年は能登半島地震で始まりましたが、建設業は地域の重要な守り手であり、社会基盤の復興事業を支える、欠かすことのできない存在でございます。今、建設業界では、限られた技術者と労働時間の中で、こうした災害からの復興やインフラの維持管理を進めていくことが求められております。このため県では、施工時期の平準化や週休2日の取り組みなど働き方改革をより一層推進するとともに、インフラ分野におけるDXの取り組みとして、ICT施工の更なる普及・拡大や工事情報共有システムの本年度からの原則適用など生産性向上に努めているところでございます。

皆様におかれましても、様々な課題に対応しつつ、建設業界を先導する経営者として、活力のある地域づくりのため、大いに御活躍されることを期待しております。県といいたしましても、今後とも安心・安全な県土づくりを力強く進めてまいりますので、引き続き御協力を賜りますようお願い申し上げます。

末筆ながら、貴部会の今後の末長い御発展と、会員の皆様の益々の御健勝、御活躍をお祈り申し上げます。

国土交通省関東地方整備局

企画部長

**西川 昌宏**



埼玉県建設業協会青年経営者部会が創立三十周年を迎えられましたことを、心からお慶び申し上げます。貴部会が平成6年4月に設立されて以来、これまで歴代部会長をはじめ会員各位のご努力により建設業界の発展並びに建設技術の向上等に大きな役割を果たされてこられましたことに対し深く敬意を表します。

関東地方整備局では日頃より建設業界等の皆様との密な連携の下、「防災・減災、国土強靭化」の取組の加速化・深化と安全で豊かな国民生活の実現に資する政策・プロジェクトを戦略的かつ計画的に展開していくこととしております。関東大震災から100年の節目に、地域の防災力向上への機会として「連携・実践・わがこと化」をテーマとし、各自治体や関係各業界の皆様に多大な御協力を賜りながら、各地域で様々な取組を行いました。また、令和6年1月1日に発生した能登半島地震の経験を踏まえ、首都直下地震等の大規模災害に備えるため、防災関係機関との連携を強化するなど、防災・減災力の向上を目指します。

建設業就業者の高齢化や担い手不足、長時間労働や休暇取得率の低さ、更には時間外労働の罰則付き上限規制の適用への対応に向け、インフラDXについて、特に今年は「展開の年」と位置付け、一層加速させてまいります。貴部会におかれましても、これらの課題に対し若い力で対応し時代や地域のニーズに応えられることを期待しております。

結びに、埼玉県建設業協会青年経営者部会のますますのご発展と会員各位のご活躍を祈念して、お祝いの言葉とさせていただきます。

埼玉県都市整備部長

**伊田 恒弘**



埼玉県建設業協会青年経営者部会が創立三十周年を迎えられ、ここに記念誌を発行されますことを心からお慶び申し上げます。県内建設業の皆様には、日頃から県の建設行政の推進に多大な御協力・御尽力をいただいていることに深く感謝申し上げます。また、建設業は普段の公共事業の推進のほか、地震や風水害などの自然災害への対応のみならず、豚熱、鳥インフルエンザ等の家畜伝染病防疫対応など、県民の安心・安全を守る担い手として必要不可欠な存在です。皆様には災害や危機への対応にも多大な御協力を賜り、重ねてお礼申し上げます。

さて、青年経営者部会は1994年の発足以降、建設業の次代を担う経営者の皆様が新時代に適応し、広く社会に貢献し、建設業界の進展に寄与することを目的として、今日まで活動を続けて来られました。これまで業界を取り巻く環境の変化に果敢に挑戦し、諸問題の解決、業界の発展にも大きく貢献されました。

2024年を迎えるにあたり、建設業界においても時間外労働の上限規制が適用されることとなりました。業界が健全で持続的な発展を遂げるため、より一層の生産性向上に取り組み働き方改革を推進していくことが求められております。

県都市整備部におきましても、工事情報共有システムの利用の拡充やウェアラブルカメラ等を活用した遠隔臨場の実施、BIM/CIM普及啓発を図るなど、県内建設業の働き方改革や生産性向上につながるよう取り組んでまいります。

引き続き、県行政に対する一層の御支援、御協力を切にお願いいたしますとともに、埼玉県建設業協会青年経営者部会の益々の御発展と皆様の御健勝、御活躍を祈念申し上げまして、御挨拶とさせていただきます。

# 埼玉県建設業協会 青年経営者部会

## 創立30周年 記念座談会

### ■開催日

2024年3月6日(水曜日)  
17:00~18:00

### ■開催場所

一般社団法人埼玉県建設業協会 役員室

### ■出席者

関根 勇治 (第9代部会長)  
齊藤 公志郎 (第10代部会長)  
真下 敏明 (第11代部会長)  
平岩 敏和 (第12代部会長)  
吉川 祐介 (第13代部会長)  
田部井 俊一 (第14代部会長)

### ■司会

関口 清久

**田部井** 本日は埼玉県建設業協会青年経営者部会の30周年記念事業の座談会にお忙しい中、集まっています誠にありがとうございます。30周年記念事業の日程も5月30日と決まり、実行委員長の荒木さんを中心に現在準備を進めています。この座談会も荒木実行委員長の肝入りの一つです。20周年以降の歴代の部会長の皆様に、当時を振り返っていただき、またいろいろなご意見を頂戴できればと思います。そしていただいた意見を基に、また次の10年に向けて進んでいきたいと考えています。

**荒木** 私は歴代の部会長にとてもお世話になりました。過去10年のいろいろな思い出を振り返りながら、また今後の青経部会のあり方についても語っていただきたいと思います。本日はよろしくお願ひします。

**司会(関口)** それではまず、10年前、関根部会長の1年目の年、このあたりからお話を伺えればと思います。時代背景的には、民主党政権下の2011年に東日本大震災が起こりました。12年12月に選挙があり、安倍内閣が発足。ここからまた、建設事業に対する見方も転換点を迎えました。部会長当時、どのような状況でしたか。

**関根** 業界がちょうど変わってきている時代に部会長になりました。当時、青経部会の事業で大きく変えたこととして、発注者との意見交換会があります。それまでは関東地方整備局の事務所との意見交換会を年に1回やっていました。



## 発注者との意見交換会を初開催し、我々の意見や課題を伝えられました



ただ、埼玉県の仕事を受注しているメンバーが多かったことから、ぜひとも県との意見交換もしたいという話が出てきました。当時、親会（埼玉県建設業協会）の真下会長にも相談させていただきながら、初の県との意見交換ができました。県の副課長に対して、我々の意見や課題などを率直に伝えています。言いづらい点もありましたが、意見交換後の懇親会などでも話ができる、有意義なものとなっています。これは青経部会の事業として今でも続いている。さらにその後、各県土整備事務所の所長とも意見交換会をやっていると伺いました。

私が部会長になった2013年と比べて、入札制度、働き方改革など、いろいろなことが変わってきています。そうした中で当時を振り返ってみると、東日本大震災の被災地に行って、協会として何ができるのかということを相談しながら、支援金を宮城県建設業協会に届けたり、現地の視察にも行きました。

**司会** 今、関根さんにちょうど2年分振り返っていただきました。その後、2015年に齊藤さんが部会長となりました。前年の14年には秩父などでの大雪もありました。すでに齊藤さんは親会の支部長にも就いていて、大変なところもあったと思いますが。

**齊藤** 私は15年に部会長をやらせていただきました。業界の環境は、どん底からの回復の途中といった状態で、まだ業界全体が非常に厳しい状況でした。9・4兆円あった公共事業費が5・4兆円まで落ち込みました。また1兆円ほど、前代未聞の執行停止までありました。秩父は国土交通省関係の工事が少ないこともあり、ほかの地域よりも厳しく、そうした中で建設業、仕事を辞めていった人たちも多くいました。

自民党政権に戻って国土強靭化計画がまとまり、これでどうにかやっていけると思ったことを覚えています。実際にその後、毎年3兆円ほどが増えて行き、いくらか、やっと、本当に最近になって、ようやく回復したかなという感じです。

各社も大分、利益を出せるようになってきたようです。今のうちに積み増して、これから行う働き方改革の資源として、つなげていきたいと考えています。

2014年の豪雪についてです。最初に30cmくらい積もり

ました。その後に70、80cmと積もり、自宅の庭で測ってみたら、ちょうど1mありました。見たことのないような大雪です。昼夜問わずに除雪をしていましたが、最終的には1ヶ月掛かりました。最初の2、3日は寝る間もありませんでした。事故が起きると危ないので、とりあえずきちんと睡眠だけは取ろうと言ったものの、なかなかそうもいかないのが現実でした。

一番大変だったことは、指揮命令系統がバラバラで、いろいろなところから連絡が来るということです。これでは駄目だから県土整備部の指揮に従うということにして、2日後くらいから、ようやく効率が良くなりました。それでも、雪が多くて、除雪しても雪の持つて行き場がないという事態になりました。その時に取った方策が、町の中を夜中に4日間封鎖して、雪を持ち出すというものです。4日間で、予算的には4000万円くらいだったでしょうか。延べ人数で現場代理人40人、オペレーターが200人の規模で行い、何とか持ち出せたっていう感じでした。経験がなかったので非常に苦労しましたが、一度経験した今ならば、もう少しうまくできるはずです。

会社の数が減っているので、通常の除雪の中でも、苦しい時代が来るかもしれません。心配な点です。もうやりたくないと言っている人もいますが、誰かがやらなければいけないと話して、何とか継続しているというのが実態です。

**司会** ありがとうございます。2016年から18年の3年間は真下さんが部会長でしたが、当時の建設業を取り巻く環境はいかがでしたか。

**真下** 激動の時代を抜けて国土強靭化が決まり、着々と少しずつ改善していくという状況でした。日本全国でみると熊本地震や西日本豪雨という大きな災害がありましたが、関東近辺は大きな災害がない3年間でした。振り返ると青経部会の事業を思いきりできたかなと感じています。委員会の皆さんもベテランが揃ってきて、何も言わなくてもどんどん企画して動ける人がたくさん育ってきました。

ただ部会員数が当時、60人を切ってしまっていたので、先を見据えた時に、部会の持続可能性、存続という意味で危機感がありました。そのため会員拡大と財務内容の強化を心に秘めながら、いろいろな活動をさせていただいた3年間でした。

**司会** 2019、20年の2年間は平岩さんが部会長でした。令和に入り、建設業も苦しい時代を少し抜けてきた状況でしたが、いかがでしたか。

**平岩** 2019年は大型の台風が立て続けに来たり、豚熱が発生したりという年でした。それらを受けて20年に、防災シンポジウムを開催し、大野元裕知事にも講演をしてもらいうことができました。昔と比べて災害が激甚化してきており、地域の守り手としての建設業がますます大事になっ

## コロナ禍では意識的に活動を継続しました

てくるという認識が強まりました。部会長2年目に差し掛かる時にコロナが発生して、みんな体験したことのない状況になりました。そもそも外出して人と会うことが難しいという中で、いつまで続くのかという不安を抱えながら、部会の活動もどうするか悩みました。建設業は幸いにして屋外の仕事が多いので、休憩所などには気を付けましたが、業界として例えれば飲食業のような深刻なダメージは受けずに仕事は継続することができました。

コロナ禍ではありましたが、災害の激甚化も踏まえて土木の仕事、予算も付いてきました。また民間投資もそれなりにある中で、土木・建築とも仕事は出てきました。ただ少子化、高齢化を受けて、担い手不足や働き方改革という流れ、声が高まってきて、我々もそういった対応を迫られる、DX化が必要になる、こうした時代の一つの節目だったと感じています。

**司会** その後、2021年から22年までが吉川部会長でした。大分最近の話になってきますが、どのような2年間でしたか。

**吉川** まさにコロナ、コロナの2年間でした。ようやく業界の風向きが良くなってきたところにコロナが来てしまいました。建設現場自体は、ほかの業界に比べるとスムーズに動いていました。ただ業界団体としての活動、青経部会としての活動が、かなり難しい状態でした。人が集まることは良くないという環境が続いた中で、田部井さんにバトンタッチという格好となりました。

青経部会の会合で、先ほどお話が出た秩父の豪雪の時のことを話しました。地元の春日部市で除雪をして

いた時に発注者から連絡があり、「そちらも大変だろうけれど、秩父は今日、大変」という話でした。その時、青経部会でずっと一緒にやってきた先輩の齊藤さんの顔がフッと浮かび、何とかできる限りのことはやらなければと思い、秩父に重機を送ったという思い出についてです。コロナ禍で非常にコミュニケーションが取りにくい時代ではありましたが、人と人の付き合いは、やはりフェイス・トゥ・フェイスで話をして、一緒に旅行に行って酒を飲んで、そういった中での人間同士のつながりが非常に強いという気持ちがありました。

コロナ禍でも、何とか集まる限りは集まって事業をやりたいという気持ちを持っていました。世の中では、WEB会議が急速に広がるなど、コロナがあったからDXが加速されたような側面もありました。ただ、できる限り顔を合わせて会議がしたいという気持ちで、コロナ対策を講じながら、集まって話し合いをしました。退任直前にはスペイン視察に行くこともできましたが、振り返ると、とにかくコロナと戦い続けた2年間という感じでした。



**司会** ありがとうございます。10年を振り返っていただきました。青経部会ではコミュニケーションを大事にしており、対外的な部分で言えば発注者との意見交換会があります。また関東建設青年会議があります。ちょうど真下さんが部会長の時に、関東の会長をされましたね。

**真下** 会長をやらせてもらいましたが、吉川さんが幹事長として支えてくれました。非常に心強かった思い出があります。会議に向けた準備を始

める中で、吉川さんと決めた最初のコンセプトは、2カ月に1回、東京で行われる役員会の後、必ず懇親会を開き、みんなで顔を合わせて交流するということです。飽きないようにいろいろなお店を探して選んで、力を入れてやっていたら、参加人数がとても増えてきました。そのうち、懇親会から参加するという人も出てきました。青経部会の皆さんにも本当にお世話になりました。

関東建設青年会議では軽いカルチャーショックを受けました。同じ関東でも、県によって文化が違いました。仲の良い県、荒々しい県、すかしている県。青経部会という組織がない県もあります。埼玉は洗練されているイメージがありました。入札制度、技術的な面など。埼玉は企業数も多いです。関東の会議や懇親会で、話してみて初めて分かった、ということが多くありました。

**司会** 真下さん、吉川さんの懇親会を重視するという考えは、関東建設青年会議で今も生きていますね。関東の会長の順番がまた数年後、埼玉県に回ってきますので、今のお話が参考になるはずです。吉川さんは幹事長として真下さんを支えました。また関東建設青年会議の委員長などを長くやってきていますね。

**吉川** 私も、関東の会議に出る前と出てからでは、感覚が変わりました。県をまたぐとこんなにも文化が違うということがわかりました。懇親会をきっかけやろうというコンセプトでスタートしましたので、とにかくお店探しは大変でした。おいしいものを沢山食べて、皆さんに楽しんでもらえるように心掛けたことをよく覚えています。

**司会** 発注者との意見交換会についてです。まずは2008年、国土交通省との意見交換会が始まりました。その後、県との意見交換会実現に向けた調整がありました。

**関根** 部会メンバーの多くは、県の仕事をメインにしています。親会の支部では、地域ごとに県土整備事務所と



## 「2014年の豪雪時は、部会仲間にヘルプしていただき絆を感じました」

意見交換をやっていました。青経部会と、年代の近い県の副課長とで少しは気楽に話せるのではないかということで、第1回目を私が部会長だった2013年度に行いました。その時もいろいろ、業界内の悩みや入札制度の要望を出させてもらい、受発注者で立場は違えど、同世代として話しやすかったという感じがありました。青経部会のメンバーが、いずれは親会に上がっていくことになることを踏まると、若手経営者の意見も大事だと思ってくれて、県との意見会が始まったのだろうと思います。

**司会** 県の副課長級の次に、県の所長会との意見交換会が真下部会長時代、2017年から始まりました。

**真下** 当時の専務理事などから、皆さんも段々と自社のトップ、社長になってきているので、そろそろ所長とも意見交換会をどうだろうかという話があり、ぜひお願ひしますと答えました。その頃は国交省とも、副課長とも、意見交換会の後の懇親会も定着していました。

**司会** 平岩部会長時代には、みんなも意見交換会に慣れてきたので、ルールを変えて、ペーパーを読みあうだけではなく、自由な意見を出し合うかたちにしました。

**平岩** もともと、同世代が膝を付き合わせてざくばらんにということだったのですが、それは言っても硬いと感じていました。我々が質問を事前にペーパーで出したものに対して、防衛するような答えが返ってくるという印象があったのです。

シナリオは最低限にして、フリートークの時間を設けようではないかという思いで、先方にも受けてもらえるかどうかわからないけど、打診してみたというところです。県が受けってくれて、まあまあ活発な意見交換ができたのではないかと思っています。お互いに意見を受け止め合ってできたということで、理想に向けて前進はしているという風に考えています。



**吉川** 国交省、県とも、意見交換会が始まった時は、お互いに問題が山積みでした。発注側が気付いていない指摘も結構あり、2、3年で改善してくれることが多くありました。最初の2、3年は有意義な意見交換会ができるのですが、その後、マンネリ期に入ります。発注時に協議が終わっていないなど、10年以上経ってもいまだに言っていますが、そういう昔からある問題で、発注側も頑張って直すとは言うものの、解決に至るには程遠いという状況がかなり続いています。解決できる問題はすぐ解決して、残っている問題にどう向き合うかというところで、平岩さんが、ストレートだけでなく変化球も投げるという取り組みをしていただいたので、大分アクセントが出てきました。

**司会** それでは、部会でやってきた新しい取り組みについてです。実際に成果を出した真下さんの会員拡大とアンケートについてお願いします。

**真下** 広報拡大委員会で当時、富田さんが親会の協会員全員、約400社にアンケートをしたいというアイデアを出してくれました。内容はとてもシンプルで、青経部会について知っているか、関心はあるか、加入できる対象者はいるかといったものでした。関心があって対象者がいる場合は、誘ってみる最上位の対象ということになります。関心はあるけれども対象者はいないという会社にも、あいさつに行ってみました。そして関心はないけれども対象者がいるというのも、実は見込みです。頑張って誘えば入ってくれるかもしれません。それらをランク付けしながら、支部別に分けて、支部

ごとに担当者を決めて勧誘をしたら、みんなとても頑張ってくれました。

また中小企業の事業承継など、みんなが興味を持ちそうな講演会を企画して、そこに新入会員候補者を呼びやすくて、先行して講演を聞いてもらいました。こうした取り組みで、会員が20人以上増えました。

**田部井** 部会も定年を延長しています。昭和48年世代が16人と非常に多く、ここが抜けると部会の運営も大変厳しくならざるを得ないと思っています。今の真下さんのお話は非常に参考になりました。アンケート実施も考えてみたいと思います。

**真下** 当時の集計データが残っているはずですから参考にしてみてください。また、回答用紙に自由記入欄を設けると、いろいろな意見を書いてもらえます。OBからのエールなどもあり、うれしかったことを覚えています。

**荒木** 現在の会員数は90人です。仮にこのまま10年後を迎えると、会員数が20人弱くらいになってしまうという非常に厳しい状況にあります。

**田部井** 今の青経部会の事業の活動の上でも、やはり会員拡大が喫緊の課題です。お話を踏まえて会員拡大についてもう一度、よく検討してみます。

**真下** 結構パワーが必要なので、例えば何年かに一度、戦略を練って、講演会も行って強化運動をしてみるのも良いのではないでしょうか。

**平岩** 今、親会の会長、副会長、支部長も、最近まで青経部会にいたOBの皆さんがなってきています。親会にも手を貸してもらいながらやるもの一つの手です。またこれまでの活動実績には、誇れるものが多々あります。上手にPRしていくのも良いと思います。



## 地域の防災の担い手としてもっと意識を高めなければいけない

**齊藤** 堅苦しくない勧誘のパンフレットを作るのも良いのではないかでしょうか。

**関根** 私は30年前、青経部会発足の準備委員会から携わっていましたが、当時は100人以上いました。会費は年会費が10万円でしたので、予算もありました。私は昭和40年生まれで、すぐ下の41、42年生まれも人数が多く、活気がありました。徐々に減ってきて現状があり、また今の現役の皆さんの中でも建設業を継いでくれるかということも悩みの種ですね。そういう中で会員拡大は一番大事なことではないでしょうか。

**吉川** 晩婚化が進んでいて、一昔前のように20代後半で結婚して子どもができたというのではなく、40歳を過ぎてからというのが珍しくなってきています。また以前は、ほかの会社に修行に行く期間は2、3年で、戻ってきてすぐ専務になるというケースが多くありました。今は10年15年と修行に行っていることが増えています。

そうした環境があるので、それを補うには、非常にアピールしていくかないと難しいと思っています。

次に平岩さんの時に、令和元年の台風を受けて防災シンポジウムを企画していただいて、これも非常に新しい取り組みでした。

**平岩** 部会長時代の事業を振り返ると、女性現場代理人の現場の見学会であったり、シンポジウムであったり、自民党青年局との交流会など、新しい取り組みを自分がやりたいからやるというよりも、世の中が変わってきて、建設業もDX、女性活躍など、そういう勉強していかなければならぬという時代背景がありました。

また2019年の秋に大きな台風があり、賛同まで出て、県内で大きな被害がありました。冒頭にも言いましたけれど、地域の防災の担い手としてもっと意識を高めなければいけないという時でした。

そうした中でコロナ禍となり、集まることは禁止という雰囲気ではあったのですけれども、我々地元の建設業者が、防災については発注者も含めて色々と共有した方が良いだらうという時期だったのですね。そうした催しをやって、知事をはじめ県幹部、あるいは国からも来賓をお呼びして、県内業者の人数を絞りながら開催し、非常に多くの方に集まっています。この防災シンポジウムは継続してはやっていませんけれども、その時代の流れの中で、必要に応じて開催すべきではないかと思っています。

ASPに関しては、DX化の流れの中で、県が積極的な姿勢でした。2020年12月25日に県若手職員との意見交換会が終わった後に、導入したいので、青経部会が窓口になってほしいと声を掛けられ、気軽に応じたところ、あらためて聞いてみると「次の春までに導入したい」とのことでした。支部ごとに、どのASPを使うかなど、業界側で整理してほしいということでした。年度末であるにも関わらず、県からもの凄いスピード感を求める、親会に相談し、親会を青経部会が

サポートし、無事、導入につながりました。

**司会** ASP導入の経緯も一例ですが、親会との関係性にも変化が出てきましたよね。親会から頼られる存在にもなってきました。親会からの助成金も、真下さんが部会長の時に10万円から100万円に増えました。

**真下** 関東建設青年会議に参加して、もっと多くの金額をもらっている県があることを知りました。そこで、会員拡大と合わせての増額を考えました。会員が減ると年会費も減り、事業ができなくなってしまいます。青経部会では年会費が10万円から5万円に下がった時代があり、その後、あえて年会費を上げたことがあります。そうしたら何が起きたかというと、事業が活性化して人が集まりました。その時は定年を延ばすという話は出ていませんでしたので、数年後に私たちの世代が抜けると、年間予算が大きく減って危ないという危機感がありました。

経済が回復してきた時期でもあり、各社の売上が上がると親会の年会費も上がります。関口さんにも協力してもらい、当時の親会の星野会長に厳しい状況をお伝えし、快く応じてもらいました。

**司会** 親会の支部長や副会長に青経部会OBが増えてきており、親会のドアをノックするチャンネル、ルートが増えてきました。親会との関係性も含めて、今後、青経部会はどうなっていくのか望ましいでしょうか。

**関根** 青経部会長が親会の常任理事会に出るようになり、親会の動きが分かります。今は親会に意見が言いやすく、一昔前とは違っていますね。

**田部井** 親会が委員会の報告書を毎年出しているように、青経部会も活動報告書を出すことになりました。青経部会の活動を知っていただき、情報のやり取りをさせていただければと思います。

**齊藤** 青経部会には現場に近い人も多くいます。親会では分かりづらい課題、本当の問題はここにあるといった点は青経部会の方がわかるのではないでしょうか。

**平岩** 近年、意見交換会や防災シンポジウム、ICT協議会などがあり、青経部会が表舞台に出て活動することが増え、親会にも実績を認めていただき、より青経部会がクローズアップされてきています。親会とは別組織で、発注者側にも少しリラックスして意見交換してもらえるというところを生かして、良い意味で親会と両輪のイメージでやっていければ良いと思います。若い人がそうした経験をすることで成長につながり、早い段階から知識を吸収して、各社が未来に向けた取り組みを始められるという歯車がうまく回れば、必ず繁栄するのではないかでしょうか。

**司会** ICT推進検討協議会、DXについて。柔軟な発想を持つべき青経部会らしいテーマとも言えます。

**吉川** ICT推進検討協議会、2023年のCSPI-EXPO視察など、根本は同じです。われわれ建設会社は、土木や建築

の技術者の集団です。外注して他人に任せておしまい、というものではありません。私たちが抱えている技術者が汗水流して考えて工夫して、それが工事に反映されて結果が出てくるという考えが強くあります。そういう意味でICT施工が始まったころ、外注して、任せてやってもらうという雰囲気になりそうで、怖かった。関東整備局にもそういう懸念を伝えたところ、発注者も、地元の建設業がきちんとやっているICT施工でなければならないと思っていることが分かりました。そのためとんとん拍子に話が進み、ICT協議会が立ち上りました。

CSPI-EXPOなども、青経部会の主に役員の皆さんに声を掛けて視察してきましたが、建設会社の社長が最新の技術の動向を知らないで話をしているというのは非常に問題です。せっかく東京や千葉などの関東管内で良い展示会があるので見にいこうと話をさせていただき、参加人数も増えてきたので公式行事になりました。

われわれの世界は土木、建築の技術者がすべてで、そのことを忘れてはいけないと思います。最先端の技術を取り入れることにはなりますが、もっと大きく見れば原点回帰とも言えます。

**司会** 青経部会は学びの場。吉川さんの精神は引き継いでいきたいです。それではまとめとして、今後、青経部会に求めるものをお願いします。

**関根** 20周年の時に私は部会長でした。歴史のある組織になってきました。私も地元の川越にいるだけでは、皆さんと知り合えなかった。県内に大勢の仲間ができるたることが、一番良かったことです。豪雪の話もありましたが、災害時にはお互いに助け合えるというのも、気心が知れた仲であればこそでしょう。ICTや働き方改革といった新しい問題に対して、何か行動をしなければ乗り遅れてしまいます。この会をさらに活性化させていただきたいと思います。

**齊藤** 例えば親会がチャンネル権を持ってるかもしれません、青経部会に期待するのは、やっぱりアンテナです。それと頭脳であってほしい。そして一緒に旅行に行っているいろいろな話をして、腹を割って話せる仲間になってほしいですね。

業界全体とすると、生産性の向上を土台とした本当の働き方改革をしていかなくてはなりません。日本全体が今、インフレを歓迎して、物価が上がって給料も上がるという状況を目の当たりにしています。これを続けていて、他の先進国と同じくらいまで時間あたりに稼ぐ力を付けて、給料や物価などをヨーロッパなどと一緒にしていかなければなりません。家庭と生活を豊かにしていく必要があり、こうした時代にここにいられるということをとてもうれしく思っています。みなさんも一緒に頑張っていきましょう。

**真下** いつの時代であっても引き続き部会員の皆さんには、己の資質の向上、そして会員同士の相互の連帯の醸成を、絶やさずに続けていただきたい。これから先、どんな時代になるかわかりません。さまざまな課題がたくさん、出るはずです。それに常にしっかり立ち向かえるように、技術と経営に磨きをかけ、切磋琢磨していってほしいと思います。

私も部会で皆さんからとても刺激をいただいて勉強に

なって、それを自社に持ち帰って経営に生かしています。良い意味での循環の伝統を続けていっていただきたいです。

**平岩** 今から10年くらい先までは、青経部会が親会とも近く、頼られる存在にもなってきた中で、働き方改革など業界が変わるためにいろいろなことをやっていかなければならないという意味で、非常に力になるのではないかと思います。アンテナを張って情報を入れて、青年経営者同士がまとまって、各社を変えて、業界もそれによって発展していくというのは非常に大事です。

そこから先の話としては、海外で仕事していて感じることとして、日本は経済的には苦しくなってくる気がしています。ただ建設の技術は世界的に見ても日本のレベルは高いと思います。地場の建設業も海外に職場を求めるような時代が来るのではないかと思っています。

そうした変革の時でも、部会員の絆、情報を先取りするアンテナがあれば、連携して、各社、そして埼玉県の建設業者が発展し続けられるのではないかと考えています。

**吉川** チャレンジすることを恐れないでやっていただきたい。私も春日市の会社ですが、春日部だけ、越谷管内だけ、埼玉だけというのではなくて、関東建設青年会議にも出させていただき、それから全国会議で多くの方とも情報交換できるようになりました。それは仲間づくりということだけではなくて、新しい技術に関しても、今はDX、働き方改革が注目されています。いつの時代になっても、新しいもの、情報を吸収できるのは、やはり若い人の方が掴みやすいと思います。業界の新しい動向にアンテナを高くして、話を聞くだけではなく、チャレンジし続けていただきたいと思います。

**田部井** 今日は歴代部会長の皆様、ありがとうございました。お話を伺い、関根さんがご就任された10年前から比べると、建設業を取り巻く環境も様変わりしていると、あらためて感じました。そうした中で青経部会は課題を解決していく組織だと思いました。

今日、先輩方から色々と話していただきましたが、部会員の連帯感の醸成、情報交換、そしてアンテナを高くすることが非常に重要だと思いました。そして時代に合わせたタイムリーな企画、講演会や事業をあらためて実施していく必要があります。

そして会員拡大。先ほど申し上げましたように、私の代が卒業すると、本当に半分以下ほどになってしまいます。喫緊の課題であり、2024年度も力を入れていきます。諸先輩方にも助言をいただき、ますます青経部会が繁栄、発展するように、微力ではございますが尽力させていただきたいと思います。今後ともよろしくお願ひいたします。本日はありがとうございました。



# 感謝そして未来へ 30年のあゆみ

1993(平成5)年～2024(令和6)年

## 1993(平成5)年

- 若手経営者の会(仮称)設立準備委員会発足

## 1994(平成6)年

- 青年経営者部会として設立総会を開催(116名)
- 初代部会長に真下恵司氏が就任

## 1995(平成7)年

- 長野オリンピック会場建設現場を視察研修
- 阪神淡路大震災に対し義援金15万円を送る

## 1996(平成8)年

- アメリカ(ニューヨーク・シカゴ・ラスベガス)へ視察研修
- 「ジュニア・ネット」創刊

## 1997(平成9)年

- 第2代部会長に伊田登喜三郎氏が就任
- 川口市「エルザ・タワー」建設現場視察
- 香港・マカオ(香港新空港建設現場)視察研修

## 1998(平成10)年

- 2002年サッカーワールドカップの埼玉県招致運動に参加
- 年会費が10万円から5万円になる

## 1999(平成11)年

- 第3代部会長に中里健寿氏が就任
- タイ・バンコクへ視察研修

## 2000(平成12)年

- 韓国(インチョン国際空港・ワールドカップ会場)へ視察見学
- 関東建設青年会議設立
- 第一回建設青年会議へ参加

## 2001(平成13)年

- 第4代部会長に島村健氏が就任
- 研修予定だった「スペイン・バルセロナ」方面行きが同時多発テロの影響で中止に
- 関東建設青年会議CALS/EC検討委員会委員長に斎藤公志郎氏が就任

## 2002(平成14)年

- 北海道(小樽・札幌)へ視察研修
- 関東建設青年会議会長に島村氏が就任

## 2003(平成15)年

- 名古屋(中部国際空港)視察研修

## 2004(平成16)年

- 青年経営者部会創立10周年
- 新潟中越地震被災地へ義援金20万円を贈る
- 沖縄へ視察研修

## 2005(平成17)年

- 第5代部会長に小林久幸氏が就任
- 鹿児島県(屋久島)へ視察研修

## 2006(平成18)年

- 中国(深圳・マカオ等)へ視察研修

## 2007(平成19)年

- 第6代部会長に岩堀和久氏が就任
- スペイン(バルセロナ等)へ視察研修

## 2008(平成20)年

- 青経部会と国交相出先機関との意見交換会初開催
- マレーシア(ランカウイ等)へ視察研修

## 2009(平成21)年

- 第7代部会長に内藤稔氏が就任
- 高知県へ視察研修

## 2010(平成22)年

- 年会費が5万円から8万円になる
- オーストラリア(エアーズロック等)へ視察研修

## 2011(平成23)年

- 第8代部会長に加藤佳孝氏が就任
- カナダ(カルガリー・イエローナイフ等)へ視察研修
- 青経部会として東日本大震災被災地へ救援物資輸送

## 2012(平成24)年

- 第9代部会長に関根勇治氏が就任
- ベトナム(ホーチミン市・ダナン等)へ視察研修

## 2013(平成25)年

- 青経部会と埼玉県若手職員との意見交換会初開催

## 2013(平成25)年

- 1月21日 東京スカイツリー視察  
2月8日 関東地方整備局出先事務所長との意見交換会(第5回)  
3月13日 埼玉県若手幹部職員との意見交換会を初開催  
5月30日 通常総会  
10月24日～29日 マレーシア・クアラルンプールボルネオ視察  
11月18日 埼玉県若手幹部職員との意見交換会



2013年2月  
県出先事務所長意見交換会



2014年5月 20周年記念式典

## 2014(平成26)年

- 1月10日 國土政策研究会伊庭良知氏「PFI・PPP」講習会  
3月6日 歴代部会長座談会  
4月9日 大洗ゴルフクラブゴルフコンペ  
4月18日～19日 東日本大震災復興支援視察  
5月30日 創立20周年記念式典  
5月30日 通常総会  
7月24日 公明党岡本三成氏「今後の建設業」講演会  
9月11日 創立20周年記念イタリア・ミラノ・ローマ視察  
10月30日 陸上自衛隊大宮駐屯地視察及び自衛官との意見交換  
11月17日 今井多恵子弁護士「建築トラブル対応」講演会  
11月18日 埼玉県若手幹部職員との意見交換会  
12月18日 自民党佐藤正久氏(ヒゲの隊長)「日本の国防」講演会



2014年12月 佐藤正久議員講演会



2014年10月 自衛隊駐屯地視察&意見交換



2015年9月 バリ島視察

## 2015(平成27)年

- 1月30日 関東地方整備局出先事務所長との意見交換会  
3月27日～28日 高知県視察  
5月29日 通常総会 斎藤公志郎部会長就任  
7月27日ほか 埼玉建設新聞「会長就任あいさつ」掲載  
9月16日 インドネシア・バリ島視察  
11月18日 埼玉県若手幹部職員との意見交換会  
11月19日～21日 長崎軍艦島視察  
11月30日 協会「技術発表会」で外国人材活用等の事例発表  
12月1日 関東地方整備局出先事務所長との意見交換会



2015年11月 関東地方出先との意見交換会



2015年11月 長崎視察



2015年11月 埼玉県協技術発表会への出展



2016年10月 フィンランド視察

## 2016(平成28)年

- 3月4日 自民党佐藤正久氏「国防」講演会  
3月30日 大箱根カントリークラブゴルフコンペ  
5月26日 通常総会 真下敏明部会長就任  
10月～11月 フィンランド共和国視察  
11月18日 埼玉県若手幹部職員との意見交換会  
12月15日 自民党田中良生氏「国土交通行政」講演会



2017年2月 尾道・しまなみ海道・呉視察



2017年10月 シンガポール視察

## 2017(平成29)年

- 2月7日 関東地方整備局出先事務所長との意見交換会  
2月9日～11日 尾道・しまなみ海道・呉視察  
3月6日 田中良生国土交通副大臣室訪問(霞が関合同庁舎)  
3月30日 武藏カントリークラブゴルフコンペ  
5月31日 通常総会  
8月23日 中野威人会計士「中小企業事業承継」講演会  
9月14日 ハッ場ダム視察  
10月26日～30日 シンガポール・マレーシア視察  
11月20日 埼玉県若手幹部職員との意見交換会



2017年8月 事業承継説明会



2017年3月 國土交通省田中良生副大臣訪問



2017年9月 ハッ場ダム視察

## 2018(平成30)年

- 2月9日 関東地方整備局出先事務所長との意見交換会  
2月21日 新潟県柏崎刈羽原発視察  
4月4日 柏の葉スマートシティ視察  
4月5日 千葉カントリークラブ梅郷コースゴルフコンペ  
5月29日 通常総会  
9月20日 日本キャタピラーデモセンター視察  
9月24日 沖縄県宮古島視察  
11月5日 関東地方整備局出先事務所長との意見交換会  
11月21日 埼玉県若手幹部職員との意見交換会  
11月28日～12月1日 ベトナム視察



2018年2月 県若手職員との意見交換会



2018年4月 柏の葉スマートシティ視察



2018年2月 新潟柏崎刈羽原発



2018年2月 新潟柏崎刈羽原発の原子炉



2018年9月 秩父日本キャピラー視察



2018年4月 千葉カントリーゴルフコンペ

## 2019(平成31)年・令和元年

- 2月8日 埼玉県県土整備部・下水道局所長会との意見交換会  
2月21日～26日 インドネシア・ジャカルタ視察  
4月19日 武蔵カントリークラブ笹井コースゴルフコンペ  
5月23日 通常総会 平岩敏和部会長就任  
10月12日 台風19号の災害復旧（伊丹テクノス）現場視察  
11月19日～25日 オランダ王国・ロシア連邦視察  
11月26日 埼玉県若手幹部職員との意見交換会  
12月5日 女性現場代理人の現場（小川工業）見学会



2018年9月 宮古島・沖縄視察



2018年11月 ベトナム視察（平岩建設現地現場）



2019年4月 武蔵カントリークラブ



2019年12月 ICT施工現場見学会（小川工業）



2019年11月 オランダ視察（アムステルダム）



2019年11月モスクワ視察

## 2020(令和2)年

- 2月6日～7日 石川県兼六園・白川郷視察  
2月20日 SDGsセミナー（寺山会計士・八洲電業社々長）  
2月21日 埼玉県県土整備部・下水道局所長会との意見交換会  
5月 書面決裁による通常総会（新型コロナ対応による）  
8月27日 埼玉防災シンポジウム2020の開催  
11月5日 関東地方整備局出先事務所長との意見交換会  
11月13日 自民党埼玉県連青年局との交流会  
11月25日 コマツIOTセンタ東京見学  
12月25日 埼玉県若手幹部職員との意見交換会



2020年2月 金沢（白川郷）



2020年2月 SDGsセミナー



2020年8月 防災シンポジウム



2020年11月 関東地整出先との意見交換会



2020年11月 コマツIoT視察

## 2021 (令和3)年

- 1月18日 埼玉県ASP導入に係る検討会（第1回）  
2月15日 埼玉県ASP導入に係る検討会（第2回）  
4月13日 武蔵カントリークラブ笹井コースゴルフコンペ  
5月21日 通常総会 吉川祐介部会長就任  
7月30日 山梨富士ゴルフコースゴルフコンペ  
11月4日 自民党埼玉県連青年局との交流会  
11月30日 関東地方整備局出先事務所長との意見交換会  
12月23日 埼玉県若手幹部職員との意見交換会



2021年11月 埼玉県若手職員意見交換会

2022年3月 国会議事堂視察

## 2022 (令和4)年

- 3月14日 国会議事堂視察及び自民党中央根かずゆき氏講演  
5月25日 通常総会及び北田埼玉県土整備部長対談会  
7月7日～9日 北海道函館視察  
11月8日 桜井航氏「インボイス」研修会  
11月28日 関東地方整備局出先事務所長との意見交換会  
12月23日 埼玉県若手幹部職員との意見交換会



2022年5月 青経部会総会



2022年7月 函館視察



2022年11月 インボイス研修



2022年12月 埼玉県若手職員意見交換会



2023年1月  
スペイン(エスタディオ・サンチャゴ・ベルナベウ) 観察

## 2023 (令和5)年

- 1月25日～2月5日 スペイン王国視察  
5月17日 PGM武蔵ゴルフコースゴルフコンペ  
5月24日 CSPIエキスピ観察  
6月8日 通常総会 田部井俊一部会長就任  
7月5日～7日 秩父・大滝トンネル等視察  
11月19日～23日 熊本・大分県視察  
11月20日 関東地方整備局出先事務所長との意見交換会  
12月14日 建設DX展ジャパンビルド視察  
12月26日 埼玉県若手幹部職員との意見交換会



2023年1月 スペイン(アランフェス) 観察



2023年6月 青経部会総会



2023年7月 秩父大滝トンネル視察



2023年11月 熊本・大分研修

## 2024 (令和6)年

- 2月1日 埼玉県県土整備部・下水道局所長会との意見交換会  
2月6日～12日 オーストラリア・シドニー視察  
4月9日 自民党埼玉県連青年局との懇談会  
5月30日 創立三十周年記念式典  
5月30日 通常総会



2024年2月 意見交換会



2024年2月 オーストラリア観察

感謝  
そし  
て未  
来へ

